

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科

上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

ホームページ
www.kodomo-
iin.com



もうすぐ梅雨になりそうです。春は短い・・・。

強い日差し、ジメジメした天気。熱中症にも気をつけてお過ごしください。

* *

百日咳が流行しています。何年ぶりかで、相当大規模のようです。

小学生に多く、

そこから小さい子や大人の方もかかっています。特に生後まもない子がかかると、無呼吸などを起こして重症になることがあります。百日咳にかかっても、小さな赤ちゃんには移さないようにしたいものです。

私も百日咳になったことがあります。小児科医になってしばらくしてからです。

咳き込みが夜中に強く、朝方の咳



で目が覚め、そのまま起きていたことを覚えています。

百日咳の予防にはワクチンがあります。3種混合ワクチン（今では4種混合、5種混合）の中に入っています。0歳で3回、1歳

で1回受けます。

ワクチンの効果は5年から10年です。小学生になると、百日咳にかかりやすくなるのは、このためです。

めです。

定期接種では、小学校高学年での2種混合に百日咳は対象外です。

百日咳含有のワクチンを、任意接種で受ける方法があります。3種混合ワクチンを使い、小学生以上の子どもたち、大人、さらに妊娠中の方に接種します（妊娠中のワクチン接種は、乳児を百日咳から守ります）。しかし、三種混合ワクチンが足り

感染症情報

新型コロナウイルス感染症はほぼ終息状態ですが、数か月後にはまた流行するものと思います。引き続き注意していきましょう。

感染性胃腸炎の発生も減りました。吐いたり下痢をしたりする感染症で、嘔吐が強いと脱水や低血糖になることがあります。小さなお子さんでは注意が必要です。

RSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症の流行は少数です。いずれも気管支炎を起こすウイルスで、繰り返しかかることがあります。

プール熱（アデノウイルスによる咽頭結膜熱）の発生が少しあります。**溶連菌感染症**も時々発生があります。いずれも喉の痛みが特徴です。

百日咳が新潟県内で大きな発生があります。新潟市から始まり、次第に周囲に広がってきました。上越地域でも発生しています。小学生以上はワクチンの免疫が減少し、かかることがあります。咳き込み発作が特徴です。万一かかっても、乳児に移さないようにしてください。乳児の百日咳は死亡することもあり、重症になります。

麻疹（はしか）も国内で発生があります。幸い新潟県内での発生はないようですが、今後が心配です。2回のワクチン接種でかからなくなるはずですが。生後1歳になったらワクチンを早めに受けるようにしてください。

ません。全国で需要が増大し、メーカーが出荷制限をかけた。当院でも予約していただいた方々に接種できず、ご迷惑をおかけしました。海外では成人用の百日咳ワクチンがあります。日本でも定期接種の中に百日咳ワクチンを入れて欲しい。百日咳から皆さんを守るようにしたいと思います。

* *

当院は今月で開業から35周年を迎

えました。例えば、長くなったものです。当初来ていた患者さんは、大人になり、次の世代を連れてきています。2世代に渡る貢献ができています。小児科冥利につきます。

次は40周年。いや50周年？ めざ

せ、生涯現役医師！

と言つてもいざ老害になり、迷惑をかけてしまうかも。その時はそつと聴診器を下ろしたいと思ひます（笑）。

実践

元祖「わたぼうし」

これまでわたぼうし病児保育室のことをあれこれ書いてきました。もう嫌気がさしてきたかもしれません(笑)、もう少しお付き合いください。

2001年の開設から24年が経ちます。この間、次第に利用者数が増大し、今では日本有数の規模になったことは前回も紹介しました。

今回はその前段階のお話です。実は「わたぼうし」と名前がつく保育園がもう一つありました。



私の「小児科実習」は共同保育園でした

●わたぼうし共同保育園

私は学生時代に結婚し、長男が誕生しました。5年生の時です(医学部なので6年制です)。

今から40年前のこと。当時は乳児を預かれる保育園はほとんどなく、職場の保育園ありません。困りました。

それなりに運動してはみましたが、すぐに保育園ができる訳ではありません。

困った時には自分で作る！ 同じくらいの子どもがいる3家庭で、共同保育園を作りました。

保育士(当時は保母)をお願いし、施設は職員の住宅をお借りし、形を



自作の「らいおんまる」でお散歩です

整えました。あとは毎日の実践です。

どうせやるなら、ただ預かるだけではなく、乳児保育の良い面をできるだけ生かしていこう。そう思っ活動していました。

経営的には厳しいものがありました。保護者負担だけでは保育士の給与をまかなうことはできません。物販売、バザーなどもしました。

●医者になる前

一番大変だったことは、保育士が休みになること。特に最初は保育士が一名だったので、彼女の休みは即休園につながります。

そこで登場するのは、私です。学



私が卒業する時には、こんなにたくさんの友だちができました

生だったので、休みがとりやすく、自主休講すればすみません。学生の友人は学生寮から本館に向かって行きますが、私は学生寮の奥にある職員住宅に向かいます。

私は医者になる前に保父さんだったんです(資格はないので「自称」ですが)。

この時の経験は、小児科医としての仕事にも生きていると思います。何より子どもが大好きなのは、当時から変わりありません。

●元祖「わたぼうし」の経験

わたぼうし共同保育園に私は卒業するまで1年ちよつと関わりました。その後は他の方々に任せてきましたが、しばらくして近隣に職場保育所のような施設ができ、その役割は終わったそうです。

こうした経験を通して、子育ては地域のみなが共同して行うことが大切と実感しました。

困った時には自分でやる！それが今に生きていると思っています。わたぼうし病児保育室の影にはそんな「隠された歴史」もありました。